

九条北小学校 校長室だより

NO.47 令和2年7月27日



4連休を終えて、新しい週が始まりました。児童たちは、4連休中、どのように過ごしていたでしょうか。問い合わせた児童によると、のんびり過ごした人、習い事で忙しかった人と・・様々でした。1学期もあとひと踏ん張り、みんなで元気に過ごしていきたいです。

★ 代表委員による「あいさつ運動」が始まりました！★

今日から、代表委員による「あいさつ運動」が始まりました。代表委員は、みんなの登校前から集まり。正門と南門のところで、登校してくる児童たちを迎えてくれました。「自分から」「元気な声で」

「相手の目を見て」あいさつができた児童には、「あいさつカード」を手渡しています。最近、気持ちのよいあいさつをしてくれる児童が増えてきました。今回の活動で、より一層、すてきな挨拶ができる児童が増えたらいいなと思っています。



太平洋横断ルート



★ 植村直己冒険賞の授賞式がありました！★

今日の児童朝会では、次のようなお話をしました。

冒険家の植村直己さんの名前を聞いたことがありますか。その功績を称え、「植村直己冒険賞」というのが創設されているのですが、この連休中に、兵庫県の豊岡市で、その授賞式がありました。

今年は、全盲（目の見えない）のセーラー 岸本光弘さんに贈られました。岸本さんは、昨年、目の不自由な人がヨットを操る「ブラインドセーリング」で、世界で初めて無寄港（途中、どこの港にもよらない）の太平洋横断に成功しました。

「ブラインドセーリング」は、全盲者と健常者のダブルハンドと言ってペアで行われます。全盲者がブラインドセーラーで、舵とメインセール（大きい帆）を操ります。ペアの健常者は、故障が起こったときに治す役目を担います。つまり、ヨットをほとんど一人で操るのです。

岸本さんは、生まれつき目が弱く、16歳で全盲になったそうです。35歳の時に、進められてヨットを始めました。2013年にも、太平洋横断に挑戦しましたが、クジラと衝突して失敗。去年、6年越しの挑戦を実らせたそうです。2019年2月24日にアメリカサンディエゴを出港し、4月20日に福島県の小名浜港に到着したそうです。

その岸本さんの言葉が印象に残ったので紹介します。

「チャンスをつかんで、恐れずに行動すること、
それが成功の第一歩」

「できるかできないかではなく、やるかやらないか」

九条北の皆さんも、夢ややりたいことができたとき、自分には無理・・などと考えずに、挑戦してほしいと思います。

